

イースト・サセックス州がサービスのモダナイゼーションに インフォシスと Oracle Cloud を選定

英国の主要州が財務、人事、調達をはじめとする中核的な業務プロセスをインフォシスの Oracle Cloud サービスと Oracle Fusion アプリケーションで統合

ロンドン (英国) - 2021 年 11 月 1 日: 次世代デジタル・サービスおよびコンサルティングの世界的リーダーである [インフォシス](#) (NSE、BSE、NYSE: INFY) は、本日、英国のイースト・サセックス州が、同州の基幹業務システムのモダナイゼーションおよび Oracle Cloud Fusion アプリケーション・スイートによるクラウドへの変革を高速する導入パートナーとして、インフォシスを選定したことを発表しました。

イースト・サセックス州は、子供、家族、高齢者向けのケアやサポート、道路の保全など州内の全住民が利用するサービスを提供し、住民サービスにおいて卓越した成果をもたらすことを重視しています。将来にわたり引き続き優れたサービスを住民に提供できるよう、同州がクラウドプラットフォームによる効率性の恩恵を受けるためには、既存のレガシーシステムのモダナイゼーションが必要であると判断しました。

同州は、財務、調達、人事を対象に Oracle Fusion アプリケーションを展開します。オラクルの統合クラウドプラットフォームにより、人事プロセスの効率化、スタッフの体験の向上、外注とサプライヤー管理プロセスの改善、財務プロセスの強化と自動化を実現し、オペレーション効率の向上、部門間のシナジー創出、従業員と市民公共サービスの提供の最適化を図ります。

このプロジェクトは、[Infosys Cobalt](#) が提供する [Infosys Oracle Cloud Services](#) サービスにより実装されます。併せて戦略的コンサルティング、クラウドサービス、マネージドサービス機能が提供され、公共セクターによるデジタル変革の取り組みをサポートし、クラウド・ジャーニーを高速化します。

Oracle Fusion アプリケーションには、Oracle Fusion Cloud Enterprise Resource Planning (ERP)、Oracle Fusion Cloud Procurement、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management (EPM)、Oracle Fusion Cloud Human Capital Management (HCM) が含まれます。これらはイースト・サセックス州のサイロ型組織を再編成し、管理プロセスの標準化、財務、調達、人事データの管理を統合された単一の IT プラットフォームで実行します。

イースト・サセックス州最高執行責任者の Phil Hall 氏は次のように述べています。「私たちの業務プロセスを機能横断的に接続し合理化することで、内部のプロセスギャップや遅延をより迅速に解決でき、部門を越えて大幅な効率向上を実現できます。これにより、私たちが持つリソースを住民に最良のサービスを提供することに集中させることが可能になります。オラクルとインフォシスには、地方自治体が機能する方法と直面する課題について理解しているパートナーがいます。」

インフォシスのエグゼクティブ・バイス・プレジデント兼エンタープライズ・アプリケーション・サービス担当グローバル責任者の Dinesh Rao は次のように述べています。「インフォシスがオラクルと共にイースト・サセックス州より選定され、同州の戦略的クラウド変革ジャーニーを導き、レガシー・アプリケーションのモダナイズと将来への備えを促進するためにご支援できることを誇りに思います。当社はこれまで、パートナーシップによる協働の強みを生かし、英国国内の公共セクターに関する深い専門知識と Infosys [Cobalt](#) が提供するサービスの力を活用して、Oracle Cloud アプリケーションのデリバリーを成功に導いてきました。イースト・サセックス州がより優れたサービス体験を住民に提供できるよう、支援できることを心待ちにしています。」

Oracle UK およびアイルランドのアプリケーション担当シニア・バイス・プレジデントである Guy Armstrong 氏 は次のように述べています。「イースト・サセックス州のような政府組織は、より広範囲で複雑度の高い業務を担う一方で、より高いリソース効率を達成する必要に迫られてもいます。より少ない資源でより多くを実現するということです。そして、住民の高い期待に応えることが必要です。アプリケーションにより、州は現在と将来のニーズを満たし、スタッフと住民により良いサービスを提供できる統合業務プラットフォームを保有することになります。」

インフォシスについて

インフォシスは次世代デジタル・サービスとコンサルティングのグローバル・リーダーとして、世界 50 개국でお客様のデジタル変革を実現しています。40 年以上にわたるグローバル企業のシステム・業務管理の実績に基づき、専門家としてお客様のデジタル・ジャーニーを推進します。変革の優先順位の判断において、当社では企業が AI を導入したコアを利用できるようにしています。また、ビジネスにアジャイル手法とデジタル化を大規模に導入することで、かつてない高いレベルのパフォーマンスと顧客満足度を提供いたします。当社の常に学ぶ姿勢は、デジタル・スキル、専門知識、および当社のイノベーション・エコシステムから創出されるアイデアの確立と移転を通じて、お客様の継続的改善を実現しています。

インフォシス (NYSE、BSE、NYSE: INFY) が次のステージへと進む企業を支援する方法については、<https://www.infosys.com/about.htm> をご覧ください。

セーフハーバー条項

本リリースに掲載されている報告書の一部は、1995 年私募証券訴訟改革法の「セーフハーバー」条項の適用を意図した当社の将来的な成長と今後の配当、財務的期待、当社の従業員、顧客およびステークホルダーへの COVID-19 の影響を管理するための計画を予測するものであり、そこには多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクおよび不確定要素としては、COVID-19 に関連するリスクと不安定要素、その拡散を抑制するための政府およびその他の対策の効果、インド、米国、世界のその他の国々の景気低迷や不況に関連するリスク、政治、ビジネスおよび経済環境の変化、収益や外国為替相場の変動、当社の成長管理能力、費用効率に影響する可能性のある IT サービス分野における競争の激化、インドにおける人件費の高騰、高い技能をもつ専門的な人材を確保する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野であるテクノロジーの需要低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切り、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢などが考えられます。将来の営業業績に影響すると考えられるその他リスクについては、2020 年会計年度年次報告書 (Form 20-F) を含め、米国証券取引委員会へ提出された当社報告書に詳細に記載されています。これらの報告書は、www.sec.gov でご覧いただけます。当社は、米国証券取引委員会および株主への報告書内の情報を含め、書面または口頭で将来の展望を随時発表する場合がありますが、法律により義務付けられている場合を除き、随時発表する将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

オラクルについて

オラクルはアプリケーションの統合スイートと並び、Oracle Cloud のセキュアな自律型インフラストラクチャを提供しています。オラクル (NYSE: ORCL) に関する詳しい情報は、oracle.com をご覧ください。

商標

Oracle、Java、MySQL は Oracle Corporation の登録商標です。

お問い合わせ先:

マーケティング本部 安藤

Mail: mktg_jp@infosys.com